

黒田南遺跡発掘調査報告書

09-1区

2011年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は大阪府南部に位置し、北は大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる、府下でも海と山との豊かな自然に恵まれています。

高度成長期に始まった開発の波が自然のみならず、多くの遺跡を破壊していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地域に新たな歴史の発見がありました。

本書は阪南市立鳥取中学校建替工事の事前調査として実施した黒田南遺跡の発掘調査報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月31日

阪南市教育委員会



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は、大阪府阪南市黒田341に所在する阪南市立鳥取中学校建替工事の事前調査として実施した大阪府阪南市黒田所在の黒田南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成21年10月19日に着手し、平成22年3月26日に終了した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室上野 仁を担当として行った。
4. 本書内で示した標高はT.P.(東京湾平均海面)を基準としている。
5. 発掘調査にあたっては関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
7. 本書の執筆、編集は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野 仁、山千代明日香が行った。
8. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆

目 次

はしがき

例 言

目 次

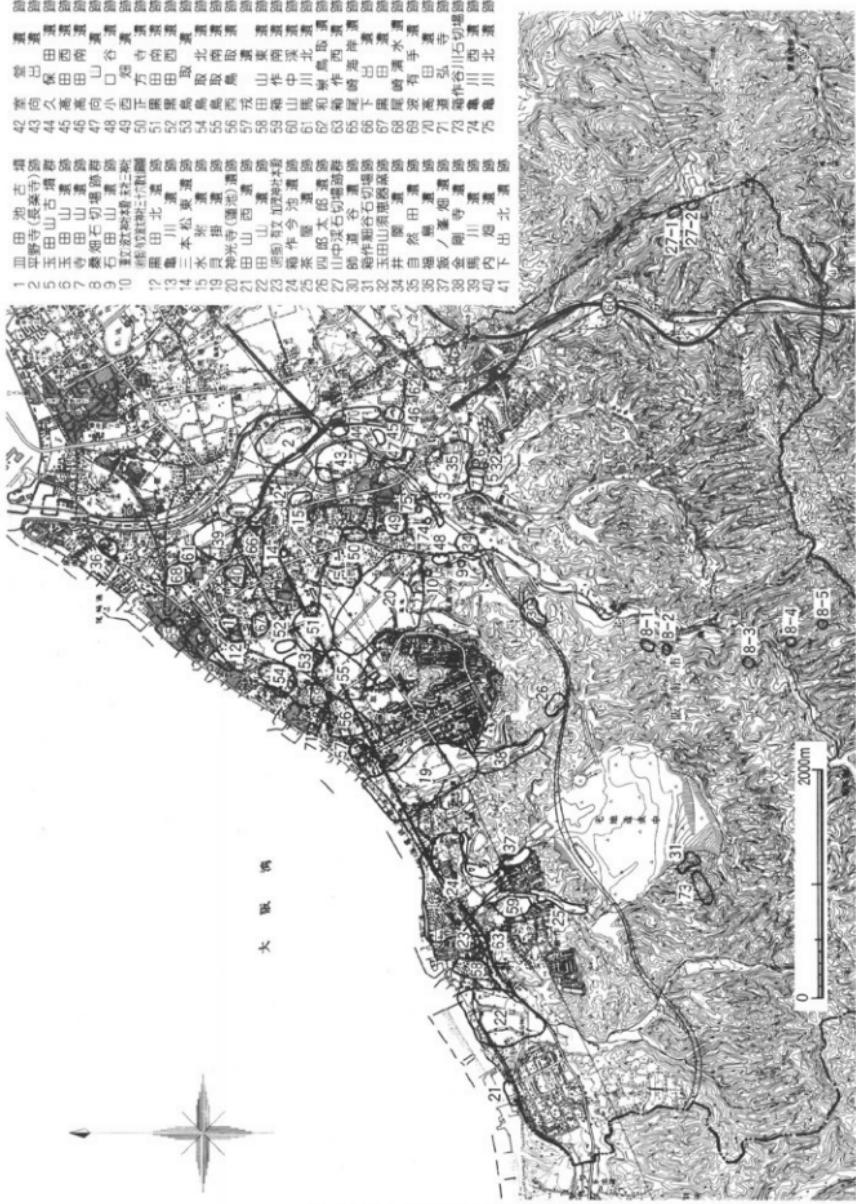
第1章 調査に至る経過と歴史的環境

| | |
|------------------|---|
| 第1節 調査に至る経過..... | 1 |
| 第2節 歴史的環境..... | 2 |

第2章 調査の方法と成果

| | |
|----------------|---|
| 第1節 調査の方法..... | 5 |
| 第2節 基本層序..... | 7 |
| 第3節 遺構・遺物..... | 8 |

| | |
|--------------|----|
| 第3章 まとめ..... | 19 |
| 報告書抄録..... | 20 |



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1章 調査に至る経過と歴史的環境

第1節 調査に至る経過

鳥取中学校は昭和22年に元西部青年学校の校地、校舎を譲り受け、現在の阪南市の元となる東鳥取村、尾崎町、西鳥取村、下荘村により「東鳥取村外3ヶ町村学校組合立鳥取中学校」として設立された。

その後、昭和31年に尾崎町、西鳥取村、下荘村が合併して南海町になったことにより、「東鳥取村南海町学校組合立鳥取中学校」に、昭和35年に東鳥取村の町制施行で、「東鳥取町南海町学校組合立鳥取中学校」に、昭和47年には、東鳥取町と南海町の合併による泉州郡阪南町の発足により、「阪南町立鳥取中学校」となり、平成3年の市制施行によって、現在の「阪南市立鳥取中学校」に改称された。その間、生徒数の増加により、昭和50年に貝掛中学校、昭和53年に尾崎中学校、昭和60年に鳥取東中学校が新設され、分離していくた。

改修前の校舎は昭和36年に鉄筋普通教室を建築後、増築を重ね、昭和48年までに鉄筋3階建3棟と体育館が完成した。

平成7年の阪神淡路大震災以降、本市でも教育施設における耐震化は大きな問題となり、平成12年に耐震診断を実施し、耐震化工事が必要であると判明した。その後、平成17年に少子化、耐震化などの問題から『阪南市小中学校及び幼稚園整理統合審議会』が立ち上げられ、「少子化の影響などにより鳥取中学校は尾崎中学校と統合し、現鳥取中学校での改築が望ましい。』との答申が出された。

また、防災計画においては鳥取中学校が広域緊急交通路及び避難路沿いにあるなど、本市の防災拠点として重要な役割を担っていることから、国臨時交付金や文部科学省所管の「安全安心な学校づくり交付金」等の制度を利用し、鳥取中学校の全面改築事業を実施するに至った。

第2節 歴史的環境

阪南市は大阪府の南部に位置し、大阪市の中心部から約45km、和歌山市の中心部からは約10kmの距離にあり、北部は大阪湾に面し、南部は和泉山脈を境として和歌山県に接している。気候は瀬戸内式気候で、比較的雨量は少なく、温暖な地域である。地勢は東西約8 km、南北約6 km、面積約36.10km²の市域を有し、そのうち約60%が山地となっている。和泉山脈から流れる河川によって形成された平野部には多くの遺跡が所在し、山間部には和泉砂岩の石切場が残っている。

黒田南遺跡は、阪南市の東部を流れる男里川によって形成された市内で最も大きい平野に位置し、規模は東西約400m、南北約300mである。北は黒田西遺跡、南は神光寺(蓮池)遺跡、西は鳥取遺跡、鳥取南遺跡に開まれている。昭和63年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で発見され、その調査では瓦器片など、中世期の遺物が採取されている。

遺跡内では、現在までに約30件の発掘調査が行われた。(表1)

既往の調査では、数ヶ所からサヌカイトやチャートの出土が見られるものの、完成品としては01-4区から出土した石鎌3点と06-1区の石鎌1点のみである。弥生土器は88-1区・01-4区・01-5区から出土しているが、現在のところその時代に伴う遺構等は検出されていない。また、ほとんどの調査区から中世期の遺物が出土しており、中世期の溝や土坑なども検出されていることから、この地が開発され人々の定住が始まったのは中世期に入ってからと考えられる。特筆すべきものとして、97-1区から須恵器の円面鏡が出土している。

参考文献

- | | | | |
|----------|------|-----------------------|-----------------|
| 阪南町教育委員会 | 1988 | 阪南町埋蔵文化財分布調査概要 I | 阪南町埋蔵文化財報告 VI |
| 阪南町教育委員会 | 1989 | 阪南町埋蔵文化財発掘調査概要 IV | 阪南町埋蔵文化財報告 IX |
| 阪南市教育委員会 | 1993 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 VII | 阪南市埋蔵文化財報告 XVI |
| 阪南市教育委員会 | 2002 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X VII | 阪南市埋蔵文化財報告 X IX |
| 阪南市教育委員会 | 2003 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X VIII | 阪南市埋蔵文化財報告 31 |
| 阪南市教育委員会 | 2004 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X IX | 阪南市埋蔵文化財報告 32 |
| 阪南市教育委員会 | 2005 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X X | 阪南市埋蔵文化財報告 35 |
| 阪南市教育委員会 | 2007 | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X X IV | 阪南市埋蔵文化財報告 41 |



第3図 黒田南遺跡既往の調査区

表1 黒田南遺跡既往の調査結果一覧

| 調査区 | 検出遺構 | 出土遺物 | 掲載報告書 |
|------|------------|---|------------------|
| 88-1 | | 弥生土器、土師器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、中世瓦 | 阪南町埋蔵文化財報告IX |
| 92-1 | 鶴溝 | 土師質土器 | 阪南市埋蔵文化財報告X VI |
| 92-2 | 溝、落込み、土坑 | 土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塙土器、土師質焼壺、陶器、近世瓦 | |
| 92-3 | | | 阪南市埋蔵文化財報告X VI |
| 92-4 | | 土師質土器 | |
| 93-1 | 土坑 | 瓦器、土師質土器、土師質焼壺、スサ入り焼土塊 | |
| 93-2 | 土坑、ピット、落込み | 土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、須恵質土器、土師質土器、瓦質土器、製塙土器、土師質焼壺、土師質管状土錐、白磁、陶器、磁器、瓦、焼土塊、チャート | |
| 94-1 | | 須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塙土器、陶器、磁器、近世瓦、片岩 | |
| 95-1 | | 須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器 | |
| 95-2 | 溝 | 瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質焼壺、磁器 | |
| 95-3 | 溝、ピット | サヌカイト、須恵器、瓦器、土師質土器、製塙土器、土師質焼壺、陶器、磁器、近世瓦 | |
| 95-4 | | | |
| 96-1 | 落ち込み | サヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、製塙土器、土師質焼壺、陶器、磁器、近世瓦 | |
| 96-2 | | | |
| 97-1 | 土坑、流路 | 土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、製塙土器、土師質焼壺、陶器 | |
| 00-1 | 溝 | 土師質土器 | |
| 01-1 | 溝 | 土師質土器 | |
| 01-2 | | | 阪南市埋蔵文化財報告X X IX |
| 01-3 | 溝、土坑 | 須恵器、土師質土器、製塙土器、チャート | |
| 01-4 | 溝、土坑、ピット | サヌカイト石錐、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、製塙土器、土師質焼壺、陶器、磁器、近世瓦、スサ入り焼土塊、片岩 | |
| 01-5 | 溝 | 弥生土器、土師器、瓦器、土師質土器、陶器 | 阪南市埋蔵文化財報告X X IX |
| 02-1 | | 土師器、瓦器、土師質土器 | 阪南市埋蔵文化財報告31 |
| 02-2 | | 土師器、瓦器、土師質土器、土師質焼壺、青磁、スサ入り焼土塊 | |
| 02-3 | | 土師器、須恵器、瓦器 | 阪南市埋蔵文化財報告31 |
| 02-4 | | | |
| 03-1 | | 瓦器、土師質土器、白磁 | 阪南市埋蔵文化財報告32 |
| 03-2 | | 土師器、須恵器、瓦器 | 阪南市埋蔵文化財報告32 |
| 04-1 | | | 阪南市埋蔵文化財報告35 |
| 06-1 | 溝 | サヌカイト石錐、瓦器、土師質土器、土師質焼壺、土師質管状土錐 | 阪南市埋蔵文化財報告41 |
| 08-1 | | | |
| 08-2 | | | |
| 09-1 | | | 本稿 |

第2章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法(第4~6図)

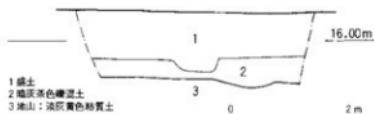
今回の調査区は黒田南遺跡の東端部に位置しているが、調査区の大半は遺跡の範囲外である。遺跡外であっても大規模な開発に伴い、周辺でも数件の確認調査は行ってきたが、今のところ遺構、遺物は検出されていない。

調査は始めに遺跡範囲の内、外を含め、調査区全域に28ヶ所のトレンチを設定し、試掘調査を行った。その結果、9~19トレンチで遺構や遺物包含層を検出したため、その範囲において、建築工事で削平を受ける753.7m²について本調査を行った。その成果については、第2節以降を参照されたい。

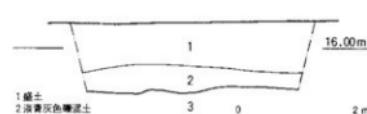
ここでは、遺構や遺物包含層が確認されなかった試掘トレンチと建築工事による影響を受けないため、本調査には至らなかった試掘トレンチについて述べる。

調査区内でも遺跡の範囲外である東部に設定した1~8トレンチの基本層序は、第1層盛土、第2層暗灰茶色礫混土、第3層淡灰黄色粘質土で、第3層以下は地山である。4~8トレンチは表土面から地山までの深さは1m前後であるが、2トレンチは1.4m、3トレンチでは1.6mと東に位置するトレンチ程地山が深くなり、1トレンチでは地山面が北方向へ傾斜しているのを確認した。このことから調査区の東半部は東側に低くなっている、さらに北方向に低くなっていく谷状地形を形成していると考えられる。遺物は7・8トレンチの第2層から近代瓦が出土している。

一方、調査区の西部に設定した20~28トレンチの基本層序は第2層盛土、第2層淡青灰色礫混土、第3層淡青灰黄色粘質土の地山である。表土面から地山までの深さはいずれのトレンチも1m前後であった。第2層から近現代の遺物が出土したため、搅乱を受けた層と判断して本調査は行わなかった。



第5図 6トレンチ西側断面図



第6図 22トレンチ東側断面図



図4 図 試掘トレンチ位置

第2節 基本層序（第7・8図）

本調査は便宜上、東から順にA・B・Cの3つのトレーニチに分けて行った。全てのトレーニチで大規模な搅乱がみられた。

Bトレーニチの西側及びCトレーニチの基本層序は、第1層盛土、第2層暗灰茶色礫混土、第3層淡黄茶灰色小礫混土、第4層明黄茶色礫混粘質土、第5層淡茶灰黄色礫混粘質土、第6層黄灰色粘質土、第7層淡灰黄色粘質土の地山である。

Aトレーニチ及びBトレーニチの東側は、第4層明黄茶色礫混粘質土が淡灰褐色土に、第5層淡茶灰黄色礫混粘質土が濃茶黄色礫混土となっている。

遺物は、第2層暗灰茶色礫混土から近代瓦、第3層淡黄茶灰色小礫混土からサヌカイト製石器、土師質土器、中世瓦、磁器、土師質有孔土錐、鉄製品、第4層明黄茶色礫混粘質土から土師質土器、第5層淡茶灰黄色礫混粘質土から土師質土器、黒色土器、瓦器、中世瓦、濃茶黄色礫混土から須恵器が出土した。1はサヌカイト製のスクレイパー、2は鉄釘で、Cトレーニチの第3層淡黄茶灰色小礫混土から出土した。

第2層は近代期、第3層は近世期、第4・5層は中世期、第6層は遺物が出土しなかつたため不明である。

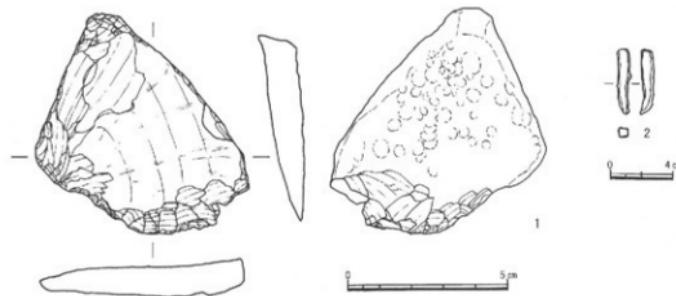


図8図 包含層出土遺物

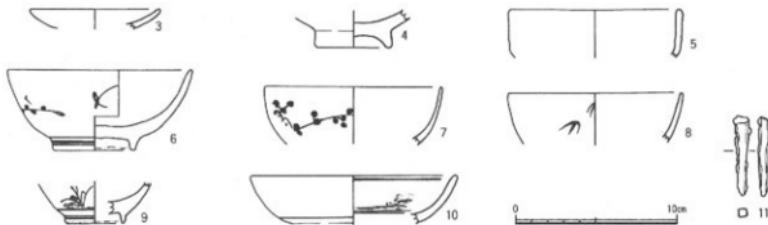
第3節 遺構・遺物

遺構は各トレンチの第3層上面、第5層上面、第6層上面、地山面の4面で検出した。

第3層上面検出遺構

溝1（第7・9・10図）

長さ24.70m以上、幅1.56m、深さ0.85mの東西方向に流れる溝で、溝3を切っている。埋土は第1層濃茶色土、第2層濃茶褐色粘質土、第3層濃茶色土とマンガン混じりの灰色粘質土、第4層灰色礫混粘質土であるが、第4層はAトレントの東部にのみ存在した。遺物は第1～3層から須恵器、土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、鉄製品が出土している。3は土師質小皿、4・5は陶器椀、6～10は磁器で、6～9は椀、10は皿、11は鉄釘である。近世期の溝である。



第10図 溝1 出土遺物

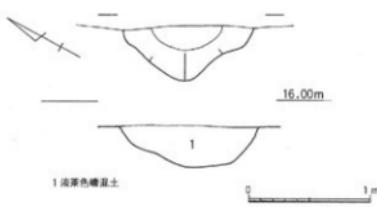
溝2（第7・11図）

長さ5.85m以上、幅1.50m、深さ0.42mの東西方向の溝で、溝3を切っている。埋土は第1層黄灰色粘土混じりの暗茶灰色砂質土、第2層黄灰色粘土混じりの暗灰色砂質土である。遺物は磁器が1点出土したが、小片のため固化できなかった。近世期の溝である。

第5層上面検出遺構

土坑1（第12・13図）

Cトレントの南部で検出した。東西0.45m以上、南北1.07m、深さ0.35mを測るが、東部は建物基礎で削平されていた。埋土は淡茶色礫混土である。遺物は出土しなかった。



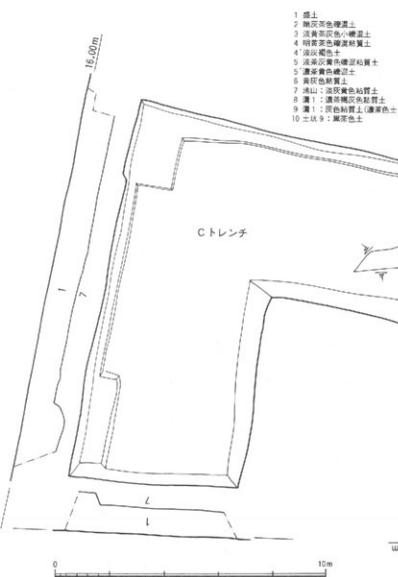
第13図 土坑1 平面・断面図



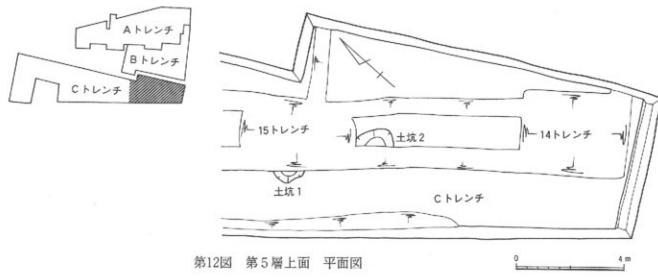
第9図 溝1 東側断面図



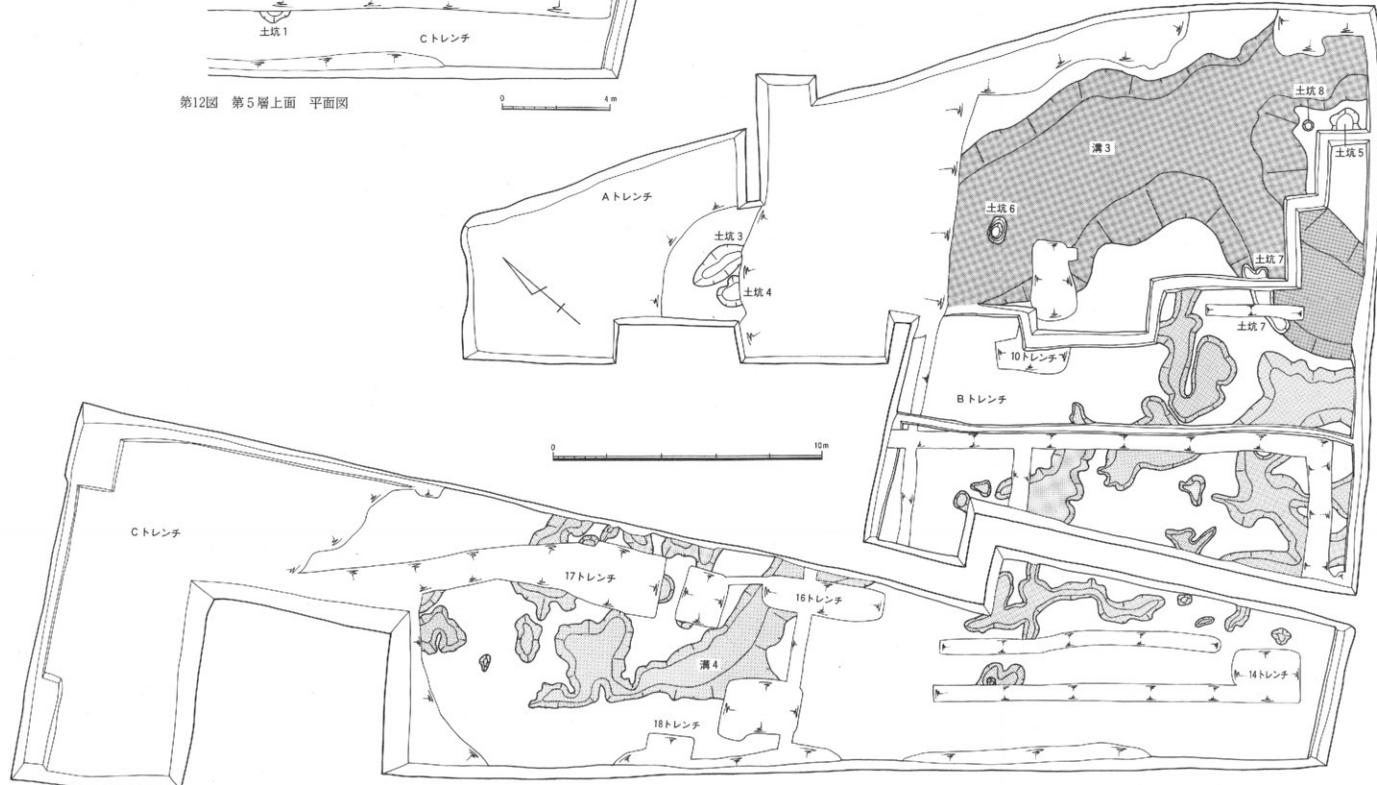
第11図 溝2 東側断面図



第7図 第3層上面 平面・断面図



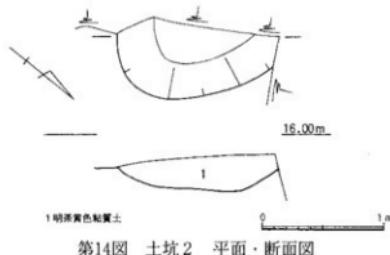
第12図 第5層上面 平面図



第15図 第6層上面 平面図

土坑2（第12・14図）

Cトレーナーの南部で検出した。東西0.65m以上、南北1.30m、深さ0.30mを測るが、西部は建物基礎で削平されていた。埋土は明茶黄色粘質土である。遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

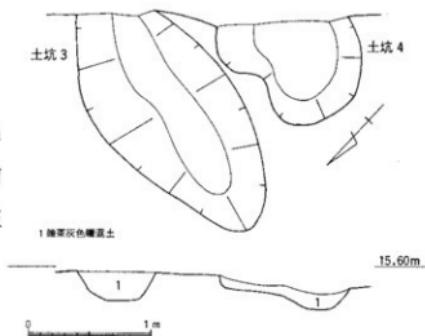


第14図 土坑2 平面・断面図

第6層上面検出遺構

土坑3（第15・16図）

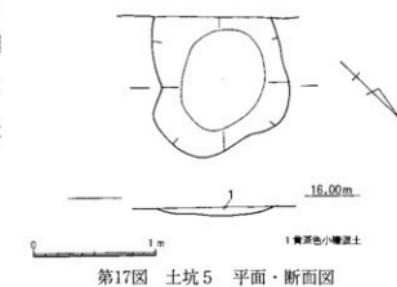
Aトレーナーの北部で検出した。東西2.00m以上、南北1.10m、深さ0.24mであるが、南東部を搅乱に削平されている。埋土は暗茶灰色礫混土で、遺物は出土しなかった。



第15図 土坑3 平面・断面図

土坑4（第15・16図）

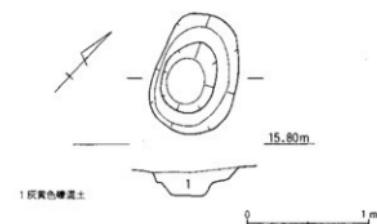
Aトレーナーの北部で検出した。東西1.30m、南北1.00m以上、深さ0.20mだが、上部は削平されていると思われ、南東部は搅乱に切らされている。埋土は暗茶灰色礫混土で、遺物は出土しなかった。



第16図 土坑3・4 平面・断面図

土坑5（第15・17図）

Aトレーナーの南端部で検出した。東西1.30m以上、南北1.20m以上、深さ0.12mを測り、南部はトレーナー外に延びる。埋土は黄茶色小礫混土である。遺物は出土しなかった。



第17図 土坑5 平面・断面図

土坑6（第15・18図）

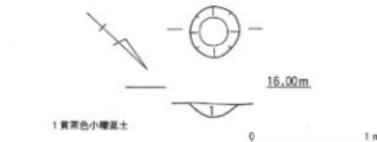
Aトレンチの溝3上面で検出した楕円形土坑である。東西0.68m、南北1.00m、深さ0.20mを測り、埋土は灰黄色礫混土である。遺物は出土しなかった。



第19図 土坑7 平面・断面図

土坑7（第15・19図）

AトレンチとBトレンチで検出した不定形土坑である。東西0.98m、南北2.80m、深さ0.18mで、溝3を切っている。埋土は黒灰色礫混土で、遺物は出土しなかった。



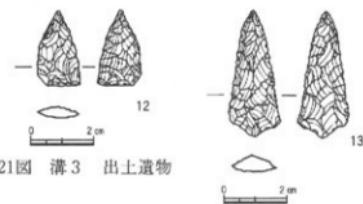
第20図 土坑8 平面・断面図

土坑8（第15・20図）

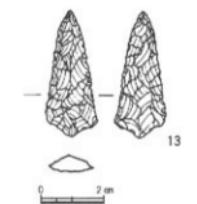
Aトレンチで検出した円形土坑である。直径0.40m、深さ0.11mを測り、埋土は黄茶色小礫混土である。遺物は出土しなかった。

溝3（第15・21図）

Aトレンチで検出された深さ0.20m程度の東西方向の溝で、埋土はAトレンチの第5層と同じ濃茶黄色礫混土である。遺物はサヌカイト製石器が1点出土した。12は平基無茎式石鏸であるが、埋土から中世期の溝と思われる。



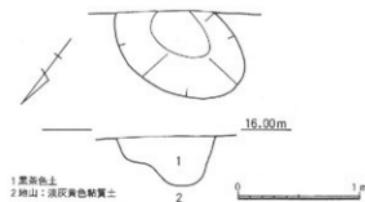
第21図 溝3 出土遺物



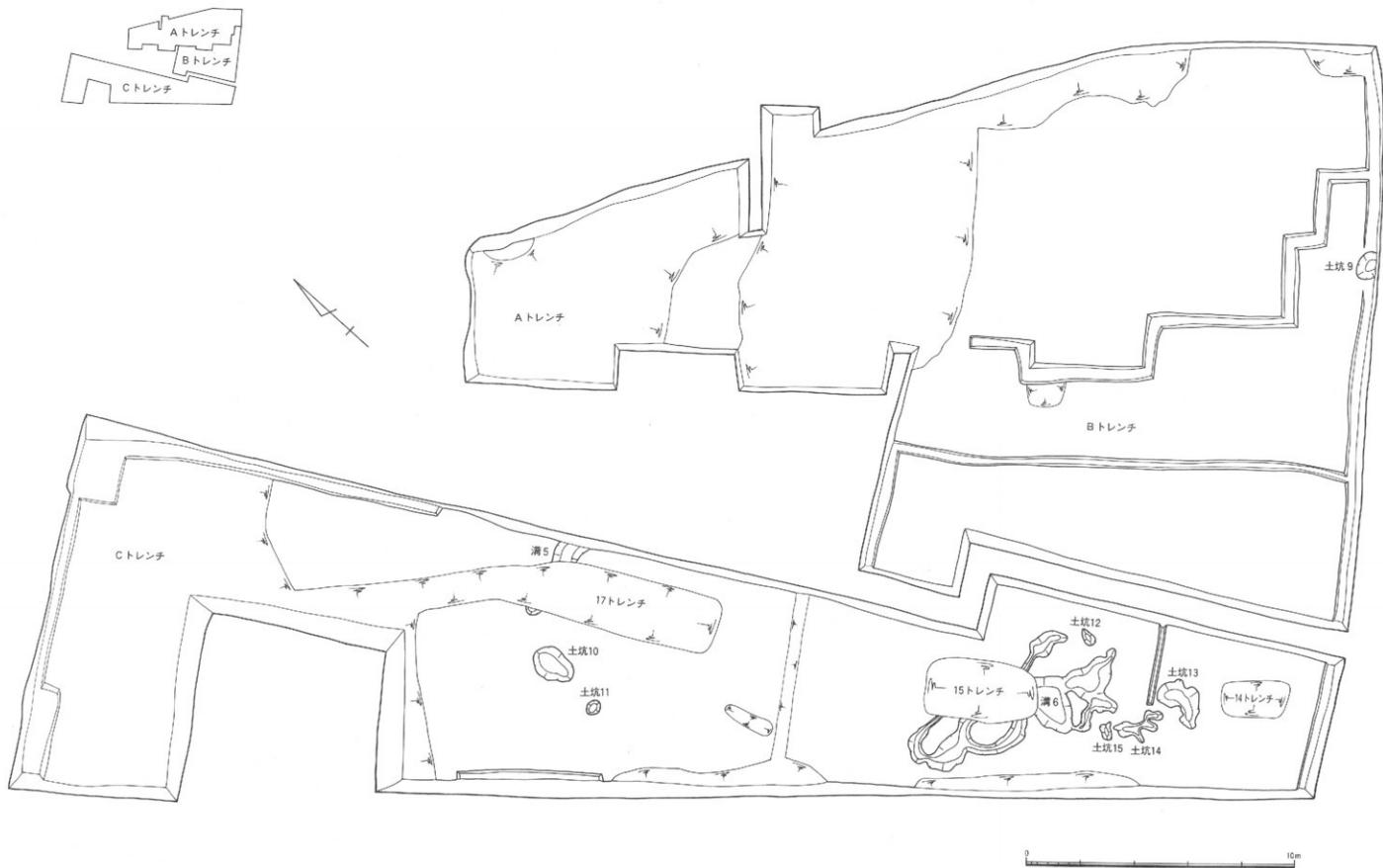
第22図 溝4 出土遺物

溝4（第15・22図）

Cトレンチで検出した深さ0.20m程度の東西方向の溝で、埋土はB・Cトレンチの第5層と同じ淡茶灰黄色礫混粘質土である。周辺で検出した不定形を呈した土坑やBトレンチで検出した不定形土坑も同じ埋土であること



第24図 土坑9 平面・断面図



第23図 地山面 平面図

から、溝の上部が削平され、底部が残ったものと考えられる。遺物はサヌカイト製石器が1点出土した。13は凸基式有茎石鏸で縄文時代のものであるが、埋土から中世期の溝であると思われる。

地山面検出遺構

土坑9（第23・24図）

東西1.05m、南北0.80m以上、深さ0.40mで、Bトレンチの南端に位置し、南部はトレンチ外に延びる。埋土は黒茶色土である。遺物は出土しなかった。

土坑10（第23・25図）

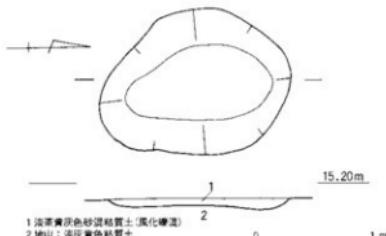
Cトレンチの中央部で検出した楕円形を呈する土坑である。東西1.20m、南北1.59m、深さ0.10mを測り、埋土は風化礫混じりの淡茶黃灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。

土坑11（第23・26図）

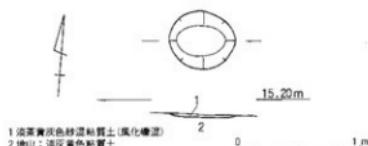
Cトレンチの中央部で検出したほぼ円形の土坑である。東西0.54m、南北0.48m、深さ0.03mを測り、埋土は風化礫混じりの淡茶黃灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。

土坑12（第23・27図）

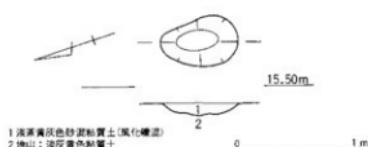
Cトレンチの南部で検出した楕円形土坑である。東西0.40m、南北0.64m、深さ0.17mを測り、埋土は風化礫混じりの淡茶黃灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。



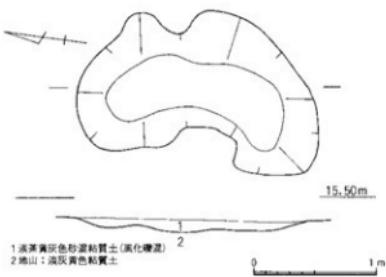
第25図 土坑10 平面・断面図



第26図 土坑11 平面・断面図



第27図 土坑12 平面・断面図



第28図 土坑13 平面・断面図

土坑13（第23・28図）

Cトレンチの南部で検出した不定形土坑である。東西0.96m、南北2.00m、深さ0.10mで、埋土は風化礫混じりの淡茶黄灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。



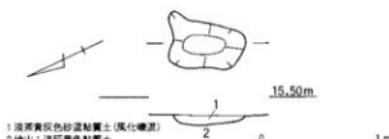
土坑14（第23・29図）

Cトレンチの南部で検出した不定形土坑である。東西1.86m、南北0.68m、深さ0.09mで、埋土は風化礫混じりの淡茶黄灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。

第29図 土坑14 平面・断面図

土坑15（第23・30図）

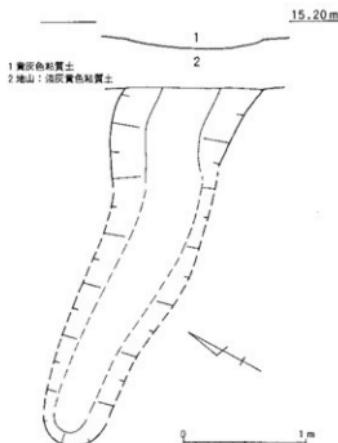
Cトレンチの南部で検出した方形に近い土坑である。東西0.59m、南北0.37m、深さ0.13mで、埋土は風化礫混じりの淡茶黄灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。



第30図 土坑15 平面・断面図

溝5（第23・31図）

Cトレンチの中央部で検出した東西方向の溝で、東西3.10m以上、南北0.95m、深さ0.05mを測り、埋土は第6層と同じ黄灰色粘質土である。遺物は出土しなかった。



第31図 溝5 平面・断面図

溝6（第23図）

Cトレンチの南部で検出した。東西8.60m、南北2.20m以上、深さ0.39mで、埋土は風化礫混じりの淡茶黄灰色砂混粘質土である。遺物は出土しなかった。

第3章　まとめ

今回の調査は、遺跡範囲外の部分も含めて広範囲に及んだ。その結果、黒田南遺跡の東側は北東方向へ谷状に傾斜していることが判明した。

遺跡範囲内で行った調査では、当初、想定した以上に近代期の搅乱が多く残念であった。しかし、中世期、近世期の包含層は残っており、当地での人々の生活が偲ばれる。

また、特筆すべき点は、遺構は伴わないものの縄文時代のサヌカイト製石鎌が出土したことである。

黒田南遺跡の南側には、縄文時代草創期のサヌカイト製有茎尖頭器が採取され、弥生時代中期の方形周溝墓が検出された神光寺(蓮池)遺跡が、西側には弥生時代後期から中世期にかけての遺構、遺物が検出されている鳥取南遺跡が隣接しており、今後、当遺跡でも縄文時代や弥生時代の遺構が見つかる可能性を示唆している。

報告書抄録

| ふりがな | くろだみなみいせきはっくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
|---------------|---|-----------------|------|----------|-----------|---|------------------------|-------|
| 書名 | 黒田南遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 09-1区 | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 阪南市埋蔵文化財報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 49 | | | | | | | |
| 編著者名 | 田中早苗・上野 仁・山千代明日香 | | | | | | | |
| 編集機関 | 阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL072-471-5678 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2011年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村番号 | 遺跡番号 | ° | ' | | | |
| くろだみなみ 黒田南 | はんなんしくろだ 阪南市黒田 | 27232 | 51 | 34 21 12 | 135 14 31 | 20091019 ～ 20100326 | 753.75 | 中学校建替 |
| 遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | | 主な遺物 | 特記事項 | |
| 黒田南 | 散布地 | 中世期 ～ 近世期 | 土坑、溝 | | | サヌカイト石器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質蜻壺、土師質管状土錐、陶器、磁器、瓦、鉄製品、焼土塊 | | |

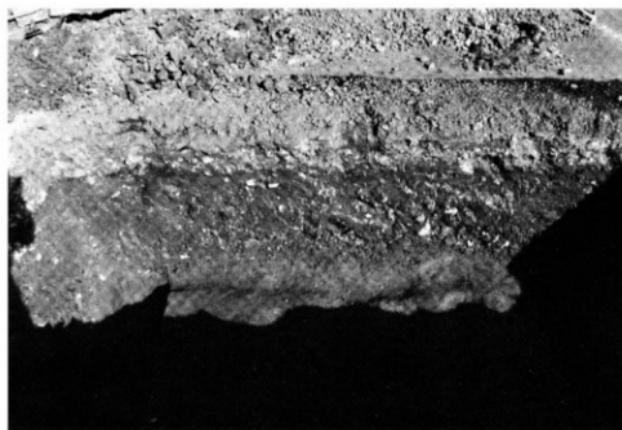




6トレンチ西側断面



22トレンチ全景(北より)



22トレンチ東側断面



23トレンチ全景(東より)



24トレンチ全景(南より)



25トレンチ全景(北より)



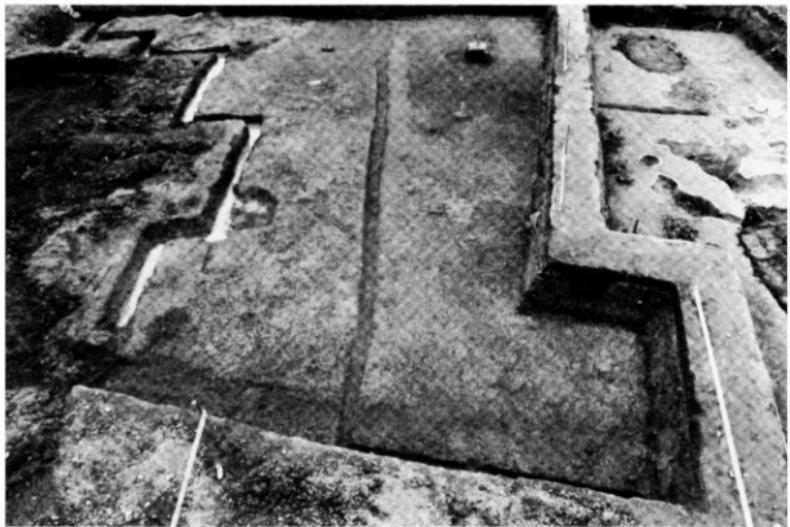
Aトレンチ 第6層上面造構(南より)



Bトレンチ 第6層上面造構(南より)



Cトレンチ 第6層上面遺構(南より)



Bトレンチ 地面遺構(北より)



Cトレンチ中央部 地山面遺構(北より)



Cトレンチ南部 地山面遺構(北より)



Aトレンチ南側断面



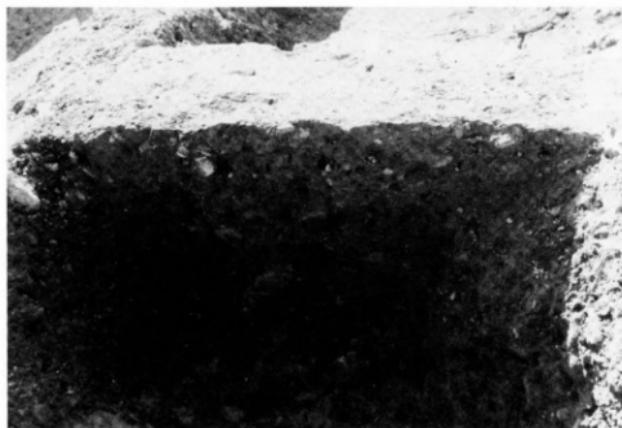
Cトレンチ南側断面



Cトレンチ内溝1(西より)



Cトレンチ内溝1 東側断面



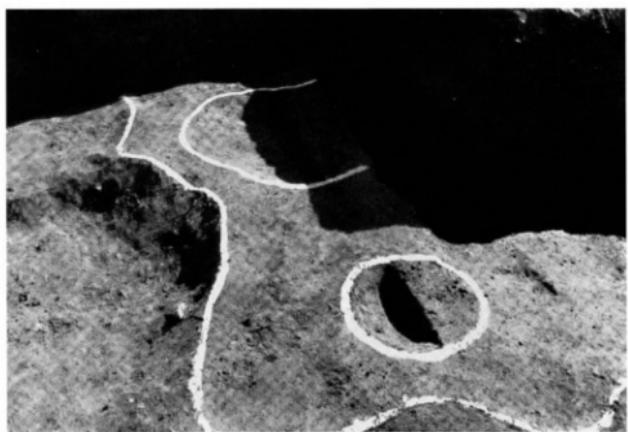
溝2 西側断面



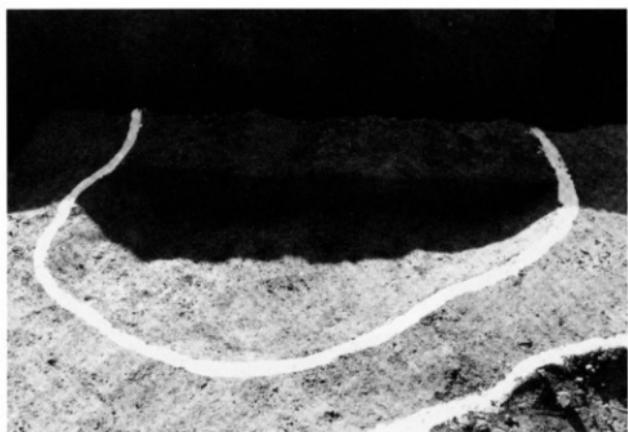
土坑1(南より)



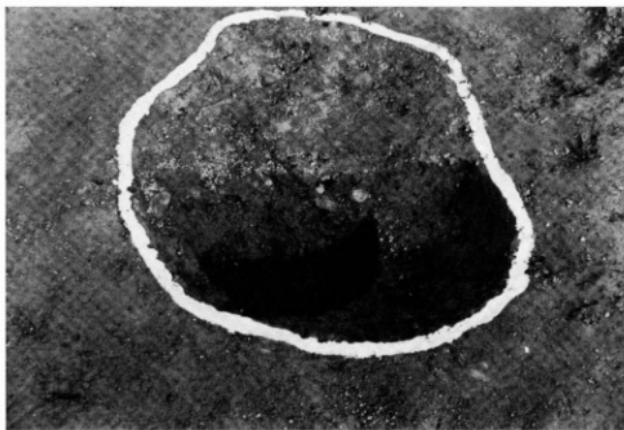
土坑2(西より)



土坑5・8(北より)



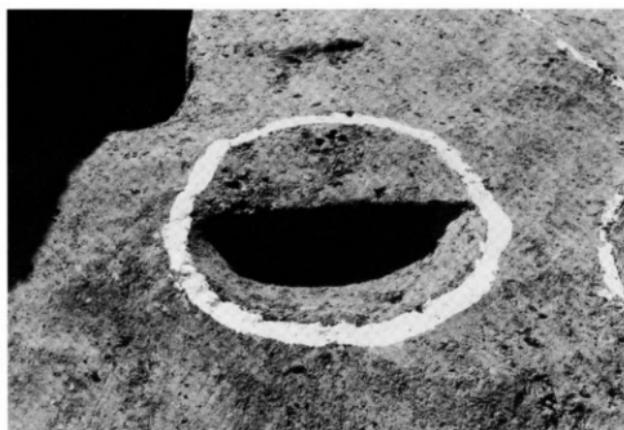
土坑5 西側断面



土坑6 北側斷面



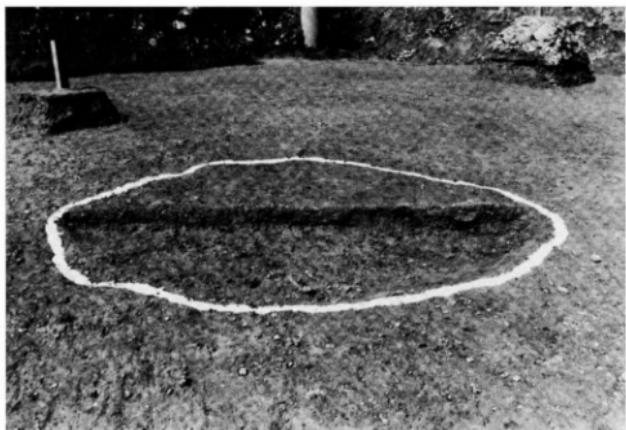
土坑7 南側斷面



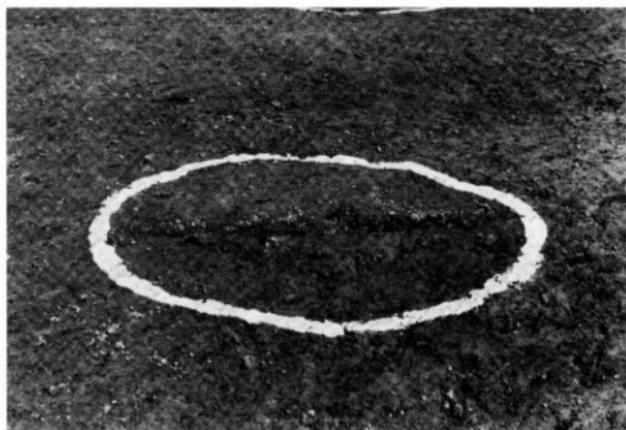
土坑8 西側斷面



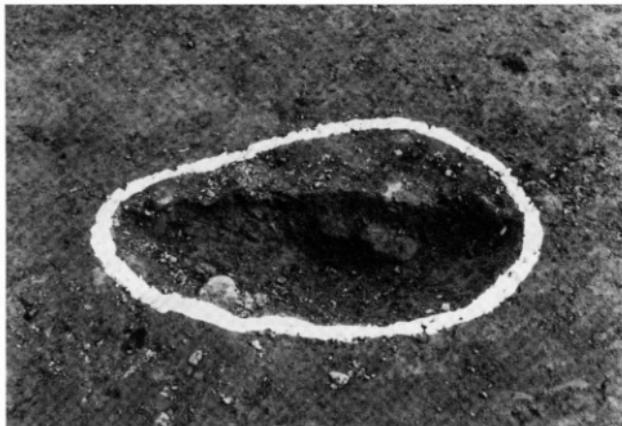
土坑9 南側斷面



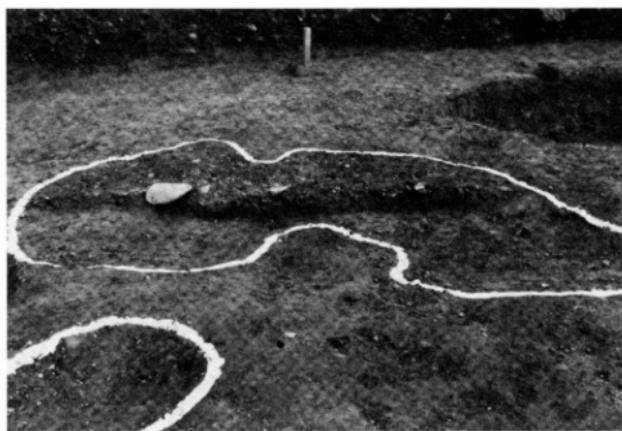
土坑10 西側斷面



土坑11 北側斷面



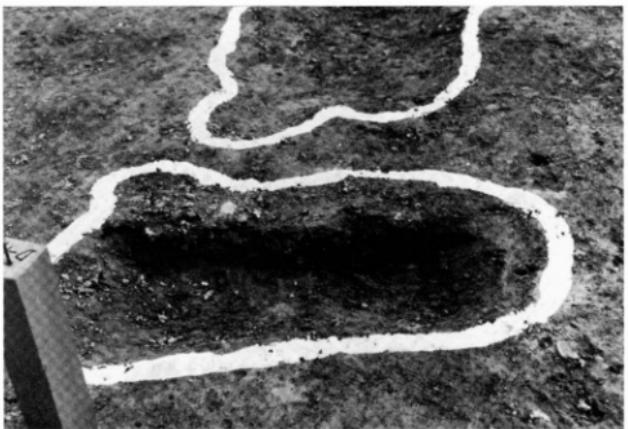
土坑12 東側斷面



土坑13 東側斷面



土坑14 東側斷面



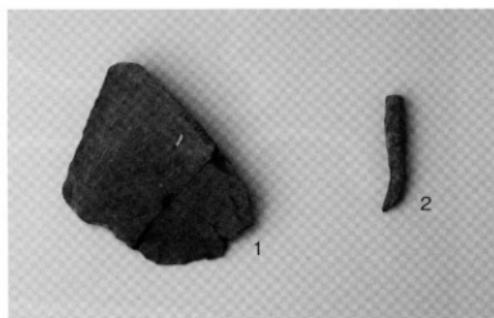
土坑15 東側断面



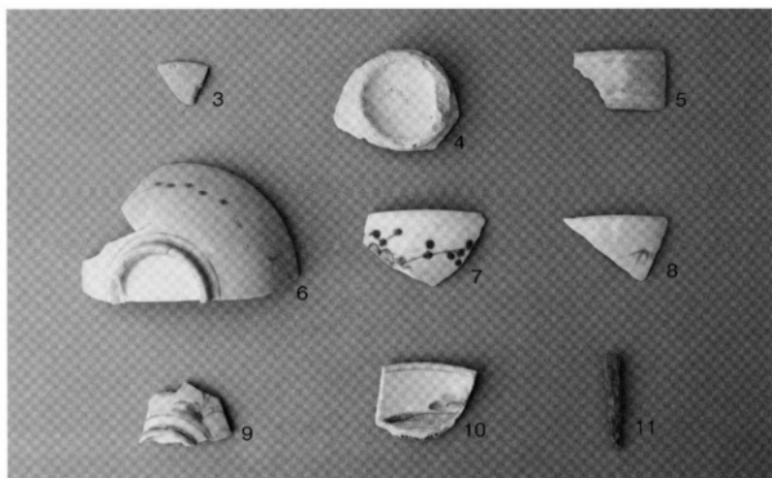
溝5 東側断面



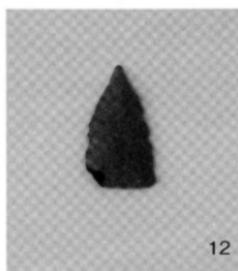
溝6 南側断面



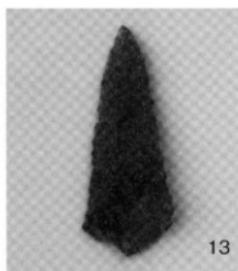
包含層出土遺物



溝1 出土遺物



溝3 出土遺物



溝4 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 49

黒田南遺跡発掘調査報告書
09-1区

2011年3月

発行：阪南市教育委員会
生涯学習部生涯学習推進室
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：株式会社 藤谷印刷所
大阪府貝塚市北町19番14号

